

## 第21回 かたの環境を考える委員会

### ■概要

- ・日時：2011年8月8日（月） 18:30～20:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：課題の設定、プロジェクト立案、ビジョン検討

### ■進行・内容

- ★18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。
- ★18:31 環境市民事務局長 堀孝弘より、今日の委員会がロードマップ上のどこに当たるかについての説明と、本日のスケジュール紹介。
- ★18:33 中間案発表会についての説明の後、どんな発表会にしたいか、委員全員で意見を出し合った。また、委員会の日程に、11月1日（火）と14日（月）を追加した。
- ★19:18 今日から新しく委員会に加わった仲間と、見学に来た方、各1名ずつを紹介。
- ★19:22 委員会に新しい仲間を増やしたいので、グループごとにその賛否と、募集の時期と方法について議論してほしいと説明。

環境保全課長より、交野市としての考え方を話された。当初に論文を書いて委嘱された委員と、その委員の声かけにより途中から委員会に加わった人（委嘱なし）は、交野市としては、環境基本計画を作るための同等の大切な仲間だと考えている。これから環境基本計画を実行するにあたり、また中間案発表会の準備においても、たくさんの人手があると聞いている。前向きに考えてほしい。

- ★19:26 グループごとに2名の代表者（お世話係）を相談して決めてほしいと説明。
- ★19:27 各グループで議論。プロジェクトを考える。
- ★20:50 新しい仲間を増やすにあたり、グループで話し合ったことを全体で共有。

#### ①仲間を増やすことへの賛否

- ・エネルギーグループ：賛成、誰でもいつでも
- ・エコ生活グループ：賛成（共感してくれる人）
- ・まちづくりグループ：賛成
- ・自然環境保全グループ：賛成、今すぐでも

#### ②どれくらいの時期にどんな方法で募集すればよいか

- ・市の広報掲載は今からだと10月になる
- ・チラシ(グループの枠を超えて)→区長会
- ・9月の市民ウォークで参加を募る



- ・一人ひとりが声をかける
- ・一人が一人を連れてくる
- ・市の環境教育事業参加者に声をかける



★21：10

全体会で、各グループの代表者を発表。  
代表の呼称は「世話人」とする。

★21：15 終了

(終了後、世話人の顔合わせと世話人会の日程の打ち合わせ)

## ■中間案発表会について全体会で出た意見の詳細

- ・形態および回数：大きいもの1回＋地域ごとに数回

(案：自治会ごと20回、小学校区10回、中学校区4回)

- ・対象：誰でも／関心のない人／これから交野を背負って立つ若い人
- ・多くの人に来てもらえるよう、広報をとにかくがんばる
- ・4つの日程候補のうち、11月23日は大イベントと重なるので避けた方がよい

※これらをもとに、世話人会で中間案発表会のたたき台を作成し、次回の全体会ではかり、企画の大枠を決定する。

## ■グループ議論の詳細

### 【エネルギーグループ】

#### 1. プロジェクトのイメージの具体化

委員から出された「ソーシャル・サン・スマイル・パーク」プロジェクトの説明を聞き、議論した。同プロジェクトの概要及び特徴として、太陽光発電普及をボランティアな取り組みとして進めるだけでなく、事業としても成り立ちことが重要であること、太陽光発電の設置条件を持たない人や、すでに導入している人でも参加でき、かつ交野だけにとどまらない活動に発展できる可能性があることなどが紹介された。

自治体の環境基本計画のなかのプロジェクトとして取り上げるにあたって、どのような要件が必要か、課題抽出して継続して検討していくことになった。

#### 2. 新しい仲間の迎え入れについて

誰でも、いつでも、迎え入れたらよい。

#### 3. 世話人の選出



#### 4. 分野ビジョン（基本構想との関係から考える）

エネルギー分野のビジョン（将来像）の議論にあたり、まず総合計画の「基本構想（82項目）」の、どの項目と関係があるか見つけることにした。

40 まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している

65 地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている

68 災害で被害を受けないよう、少なくするよう備えている（エネルギー自立の観点から）

以上の3つは、エネルギー分野のビジョンとおおいに関係があると認められた。

◇交野市総合計画基本構想

<http://www.city.katano.osaka.jp/kakka/kikaku/kihonkousoupdf/4thindex.html>

☆宿題：エネルギーグループでのこれまでの議論、および活動実践者は実際の活動などから考えて、交野市の「基本構想」以外のビジョン（将来像）が必要か、必要ないか考えてくる。「必要」と思われる場合、どのようなビジョンであればよいか、案を考えてきてほしい。

#### 【エコ生活グループ】

##### 1. 世話人の選出

##### 2. 新しい仲間の迎え入れについて

<結論>

・メンバーが増えるのは基本的に賛成。但し、中間案発表会までは自分たちで声をかけた人にきてもらう。

・中間案発表会のときに関心を持ってもらった人は、参加してもらう。

・中間案発表会以降は、あらゆる手段を使って広報する。市広報、web、インターネット、ツイッター、ミクシーなど。

<出た意見>

・仲間は多い方がいいと思う。どうやって増やしたらいいか？

・迎えることに賛成

・10人くらいがひとつのグループとしては議論しやすいかも

・他のグループはメンバーが少ないところもある

・このグループは男性が少ないので男性にも来て欲しい



- ・新たな仲間は増やさないといけないと思う。でも入って来てもらうタイミングは考える方がいい。中間案発表会のあとでもいいかもしれない。
- ・いろんな意見をもっている人がいるのはいいこと、刺激になる。自分たちで声をかけてきてもらうのはどうか。
- ・中間案発表会までは自分たちで声をかけ、今の状況を理解しつつ議論できる人を増やせばいい。
- ・プロジェクトの実施段階での参加候補者は思い描いている人たちがいる。

### 3. グループ内の報告、連絡方法をどうするか

- ・これまで通り、FAXかメールで事務局（環境保全課）へ送り、それをメンバー全員に知らせてもらう。

### 4. プロジェクト案の共有

- ・考えて来たプロジェクト案について、各自紹介をした。
- ・プロジェクトに通し番号をふった。

#### 1-1 親子でエコチャレンジ

目的：省エネに楽しんで取り組む。交流することで省エネ、スキルアップ

#### 1-2 誰でもエコ良人（ろじん）

目的：今まで環境に興味がなかった人も巻き込んで、市全体で環境にやさしいまちにする

#### 1-3 タイトルまだない

目的：各人がどれくらいCO2を出しているか知る。省エネに興味を持ってもらう。

#### 1-4 「エコライフ達人への道」攻略マニュアル

目的：エコライフに繋がる具体例を知る・知らせる

#### 2-1 タイトルまだない

目的：エコライフ

#### 2-2 タイトルまだない

目的：エコ生活がしやすいものの売り方をする

#### 2-3 ごみを買わない・買わせない

目的：ごみの発生を抑制する売り方・買い方の提案

#### 3-1 出前講座（自分に応じた生ごみ堆肥化）

目的：各自で生ごみを堆肥化

勉強会が必要。みんなで学習できる機会をまずつくる。町内を回ってゆく。

いつでも情報を得られるコーナーをつくる。意識と知識を広めてゆきたい。リサイクルセンターができる。

### ⇒今後の作業について

- ・中間案発表会に向けてブラッシュアップしてゆく。
  - ・中間案発表会で質問されてもきちんと回答できるくらいに内容を手順も含めて考えてゆく。
- ☆次回からは、プロジェクト案が「こうするともっとよくなる」の具体的な議論をしてゆく。

## 【まちづくりグループ】

### 1. 新しい仲間の迎え入れについて

#### <新しい仲間の必要性>

- ・新しい人は必要。但し、迎え入れる時には、サポートがいる。絆も生まれる。
- ・発表会などでは、いろんな面で得意なことを生かせる人が必要。

#### <勧誘方法>

- ・委員による一本釣り：各委員が身近な人を誘う
- ・市の環境教育事業に参加した人達へ呼びかける。
- ・チラシ（全ての部会用）を作成し活用する。例えば、区長会を通じて回覧する。
- ・市の広報で、委員会が紹介されている環境保全課のHPを宣伝する。

### 2. 世話人の選出

### 3. 残された課題の設定

問題抽出されたなかで“公園・まちなかの緑”についての問題点が残っており、課題設定のための議論を行った。

#### <問題点>

年配の方が過ごせる公園がない。各住宅地の公園の緑が少ない。公園のメンテナンスが不十分。街路樹（緑）が少ない。

#### <議論の結果>

- ・公園について…課題③「地域で子どもを育てる環境作り」の中の、公園の活用や、大人と子供の関わりについての問題と絡めて扱うことが可能。
- ・緑について…地域によっては、道幅が狭く植栽に適さないところが多い。また、街路樹が通行の弊害や維持管理の手間となっている状況も多くみられ、一概に増やせばいいとは言えない。



一方で、まちなかの緑より自然の緑（山など）が多く存在している状況がある。これらの点から、自然の緑を子どもたちの環境教育に役立てる方向で考えていくことが、まちづくり部会の方向性ではないかということになり、問題としては取り上げないこととした。

#### 4. プロジェクト立案演習

前回の続きとして、課題③「地域で子どもを育てる環境づくり」について、そのために何をするか（内容・手法）について各自で考えてきた宿題を共有した。

- ・家庭内でのあいさつ運動・夜回り活動（子供会＋役員）・子供会活動の活性化・小学校区のゴミ拾い
- ・地域での事業に親子で参加（農業体験など）・校区フェスタ
- ・ラジオ体操を子ども会と共同で・あいさつ運動
- ・地域の清掃・農業体験・地域の危険な場所チェック・地域の中の宝物探し・川の清掃と生物観察
- ・地域の危険箇所チェック
- ・各地域で継続していく事業を考え、その取り組みの子どもたちを巻き込んで行う。

このプロジェクトの続きは、他プロジェクトについてのチーム分け（2人チームと3人チーム）ができた際に、3人のところで担当する。

#### 5. プロジェクト立案する担当課題を選ぶ

課題①「環境を大切に考えた観光をもっと活発にし環境のまちづくりにつなげていこう（観光資源のなかに農地、景観資源も含めて考える）」

課題②「住民が主体になって、乗りたいバス・乗りやすいバスにしてゆく」

課題④「誰もが自転車で走りやすく、歩きやすい道づくり、みんなが自分のこととして考え解決してゆく」

#### 6. その他

プロジェクトのチーム割ができたことで、今後、個別の連絡が一層必要となるためグループ内での連絡先の共有をすることとなった。

☆宿題：各チームで相談し、担当課題のプロジェクト考案シート（素案）を書いてくる。（複数可）  
次回は宿題（プロジェクト素案）を持ち寄り、共有。各案を深めるための議論を行う。



## 【自然環境保全グループ】

### 1. 新しい仲間の迎え入れについて

- ・メンバーを増やすことには賛成。今すぐ人を集めていくべき。
- ・健康増進課が共催する市民ウォークには自然の好きな人が毎回 50〜100 人集まるので、そこで呼びかける。次回は 9 月 16 日（毎月第三金曜日）。
- ・広報にも掲載する。最短で 8 月 31 日締切、10 月 1 日発行。
- ・最初に広報に載せた文章を利用してちらしを作る。シルバー人材センターに置く等。
- ・地主の息子など、地の人で影響力のある人に呼びかけてメンバーに入ってもらおう。

### 2. 世話人の選出

### 3. プロジェクト案についての意見交換

<今回の議論>

- ・プロジェクトの目的には 2 種類あるのではないか。地域振興と生態系保全。



地域振興は、地主さんを口説く言葉として使えるのではないか。

- ・自然環境保全条例（自然環境保全等委員会）では、土地所有者と有識者、市民の参画を求めている。

里山としての登録制度とボランティアの登録制度は条例上整っているが、うまく動いていない。

- ・私有地以外の土地でプロジェクトのとっかかりにしやすいのは財産区。

財産区では管理の手が足りていない。

倉治の財産区は交野ゆうゆう会と協定を結んでいる。

- ・国定公園や保安林等、土地にはいろんな法の網がかぶっている。

エリア分けの地図づくりをしてはどうか

- ・三つのボランティア団体（交野ゆうゆう会、森山地保全会、都市近郊の森を育てる会）と森林をどうつなぐか

- ・交野はモウソウチクとマダケで埋め尽くされている。

もう手遅れなのか、手をつけるべきなのか、みんなで議論したい。

- ・竹林の管理には、斜面の勾配や間引きなど、どう管理するか、土木工学の知識を持った上での計画が必要。

- ・無理な計画にしないよう、段階を踏んだプロジェクトにしたい。

- ・「きこり講座」「交野生物調べ隊」は他のプロジェクトに組み込んではいかぬか？

教育委員会との連携をはかる。

あるいは、校長先生をくどき、小学校ごとにカリキュラムづくりをする。

先生のOBが集まったグループと連携する。

(山に近い倉治小では森の活動がある)

(私市小には森の中のアスレチックがある)

(妙見坂小は竹を切って七夕に利用)

☆宿題：以下の点を踏まえつつ、それぞれのプロジェクトを見渡し、各自であらためて企画考案シートをまとめてみる。

#### 考える上での重要なポイント

- ・里山をエリア分けする

誰の所有か、公か民か、国定公園や保安林などに指定されているか  
財産区など、手あをつけやすいエリアはどこなのかを明らかにする

- ・地主とのつながりを持つ

プロジェクトの正否を分けるのは土地所有者の協力

どのように協力を得ていくか

農とみどり課の説明では、地権者の連絡会のようなものがある

→ヒアリングして確認を

- ・学校や先生をどう口説くか

次回の予定：それぞれの企画考案シートを見て関連性を考えながら、どのようにまとめていくかを全体で議論していく。

以 上